

令和5年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県北会場

科目 ④子どもの発達理解

- ◆ 4月に入学した1年生も半年以上が経ち、ずいぶん成長を感じます。上級生のまねをしてみたり、自己主張して言い合いになったりと学校生活が中心となるこの時期の子どもの発達の特徴や発達過程には個人差があることを実感します。「差」を「幅」と捉えて、一人一人の表現を理解し、放課後児童クラブで過ごす中で成功や失敗を通して成長する子どもに関わる重要な役割を担っていると再確認しました。
- ◆ 子どもが各時期（胎児期～青年期）を経て大人になっていく中、その一部である児童期を私たち支援員と一緒に過ごしています。学校と家庭の間に位置する放課後児童クラブも子どもたちにとっては大事な場所です。私たちは子どもたちを毎日温かく迎え、発達の個人差を踏まえて、健やかな人間に育つことができるよう支援していくことが重要で、責任重大だと思いました。
- ◆ 本科目を通じて学んだことは、子どもの発達を理解するための基礎、育成支援における子どもの発達の特徴や過程の理解、子どもの発達理解のための継続的な学習の必要性です。子どもの発達における環境要因の一つとして「人」に視点をあて、私たちのような子どもの成長に携わる大人がその子の今をありのままに受け止め、理解し、励まし、共に考える支援者となることが大切だという言葉に共感しました。
- ◆ 今回の科目で児童期は学校生活が中心となり、自覚性や計画性が発達する時期だと教えてもらいました。何か起こったときに子どもに指示するのではなく、どうしたいのか、どうしたかったのかをよく聴き、そこに向かっていけるように手助けしていきたいと思えます。そして生涯にわたる社会性や情緒の発達の原動力になる「愛着の築き」を続けていき、「気が付いた時がスタート。乳幼児の時期が過ぎたから遅いというわけではない。」という言葉を励みに頑張りたいです。
- ◆ 子どもの発達を理解するには、まずは支援員が子ども一人一人の特徴や発達段階を把握する必要があると感じました。その中でも、子どもの発達における環境要因がとても大事だと感じました。子どもの今をありのままに受け止め、理解し、励まし、共に考えてあげられるようになりたいと思いました。日々の職務の中で追われるように働いていたことを反省し、一人一人の疑問や意見に耳を傾け、子どもを受け入れていきたいと感じました。